

アルメイダ病院の緩和ケア病棟では何ができるの？

- すぐ入院できますか。

入院する前に、本人やご家族に来ていただき、入院するための予約外来の受診が必要です。そこでは、緩和ケア病棟を見ていただき、緩和ケア病棟で行っていることについて説明します。そのうえで入院をご希望されるようでしたら、予約いたします。予約をして、1週間以内に入院できる場合が多いです。
- まだ家で暮らしたい。外来通院はできますか。

まだ緩和ケア病棟への入院を決めていない場合でも外来通院していただけます。現在の病院に通いながら、当院へ通院していただくことも可能です。
- 退院はできますか。

症状が落ち着いて、退院される方もいらっしゃいます。退院後は、当院の外来に通院することも可能ですし、訪問診療や訪問看護と連携もしています。
- 入院期間は決まっていますか。

2か月をめぐり、症状が落ち着いている場合は、転院や自宅退院を相談します。症状が続いていると判断された場合は、そのまま入院継続をお勧めします。
- 面会はできますか。

現在は、新型コロナの影響もあり、県内在住で、県外者と接触していない、実父母、実兄弟、子(対象者がいない場合は相談)のみ、原則15分以内、一度に2、3人までに制限しています。残った時間が数日の場合や、どうしても必要な面会者(特に本人が希望する場合)については、この限りではありません。今後の新型コロナの流行により変化しますので、外来受診時にお尋ねください。
- 検査はできますか。

苦痛緩和に必要な検査は行いますが、定期的な検査はしていません。血液検査以外にも、胃カメラ、心電図、レントゲン検査、超音波検査、CT検査、MRI検査など、苦痛緩和のために必要な検査を行っています。病状により、アルメイダ病院の専門の医師や看護師による診察も行っています。
- 輸血はできますか。

赤血球輸血を行うことで苦痛が緩和できる場合は行います。血小板輸血は数日しか効果を維持できないことから行っていません。
- 胸水や腹水は抜いてもらえますか。

苦痛緩和が期待できる場合は、胸水、腹水を抜いています。
- 緩和ケア病棟では何ができますか。

血圧や酸素飽和度は測りますが、緩和ケア病棟には心電図のモニターがありません。ですので、胸にいろいろなコードがついたりせず、今いる病棟と違って静かなことに驚かれると思います。まずはそれまでがん治療に頑張ってきた体を休めて、穏やかな日常を取り戻しましょう。そのために、痛い、息が苦しい、食事が食べられない、眠れない、これからどうなるのだろう、これからどこでどうやって過ごしていこうか、いろいろな苦痛を抱えているあなたのまわりに医師、看護師、薬剤師、心理士、栄養士など多くのスタッフが集まり、支え、一緒に考えて歩いていきます。
- さらに詳細をお知りになりたい方は、アルメイダ病院緩和ケア病棟のホームページの「よくある質問」(<https://www.almeida-hospital.com/kanwacare.html>)をご覧ください。